

名古屋キリスト教社会館

後援会だより

第 37 号

発行日；2023年4月15日

発行人；安藤 博之 編集人；谷川 修

〒457-0805 名古屋市南区三吉町 6-17

3年前までの豊かな交流を願う

新年度が、コロナ感染の収束とともにスタートしました。5月には第5類に引き下げられる見通しで、やっと3年前までのように、人々が集い、真近で語り合える機会が増えることが期待されます。しかし、人と距離を置く、極力控えたマスク越しの会話を余儀なくされた3年間という期間は決して短くはなく、そこでの暮らしぶりが普通なこととなった？（多くの人々が感覚的にそう感じているかな！？）影響は計り知れません。元のような生活を取り戻すのには、数年かかるのかもしれませんが。

後援会は、名古屋キリスト教社会館（以下、社会館

という）の応援団です。社会館がコロナ前のような豊かな交流を、早い時期に取り戻すのかどうか、それ如何で後援会の活動も大きく左右されるのかなと思いますが、一方で社会館が一日も早く嘗てのような人々が雑多に行きかうような行事を再開するように、後押しもできる後援会でありたいと願うばかりです。

後援会会長を引き受けて2年目を迎えます。今年こそ、私が後援会としてやりたいと思っていること、社会館に集う子ども、家族が楽しく交わりを深めるようなプログラム、社会館の先生たちを応援したと実感し、喜んでもらえるような企画を是非とも計画、実施したいと願っています。会員の皆さん、社会館関係者の皆さん、どうぞ宜しくお願いします。会長 安藤 博之

2023年度事業方針、事業計画、予算案は、

1. 事業方針（案） コロナ前のような活発な活動を実施、社会館の後方支援、会員間の交歓をすすめ、文化を楽しみ、学びの機会をもつことで豊かな人生をエンジョイする。
2. 事業計画（案）
 - ① 会員増強 1,000名会員の目標の早期達成
 - ② 総会 対面とオンライン併用 6/17（土）午後 学びとお楽しみ企画（福祉研究所と共催で）
 - ③ お楽しみ企画 会員の要望を聞き、年数回開催 コンサート他
 - ④ 社会館後方支援としての活動
夏祭り、社会館バザー等での出店協力
募金委員会の立ち上げ
社会館の事業所に通う人々の交わりの新企画
 - ⑤ タイムリーな広報、新たな広報の模索
3. 予算（案） 総予算 1,180,000 円

収入内訳	会費 650,000 円（1,000 円×650 人）
	前期繰越金 500,000 円（見込み）
	その他 30,000 円
支出内訳	総会費 100,000 円 社会館献金 100,000 円
	支部費 30,000 円 事務費 99,000 円
	事務人件費 120,000 円 募金経費 300,000 円
	次期繰越金 431,000 円

2023年4月10日現在

会員数650名

今期より、実数表記（幽霊会員は除くこと）とすることにしました。当面の目標である1000名が少し遠い目標に感じるようになりましたが、できるだけ早期に達成できるよう、お知り合い等への呼びかけを今後も宜しくお願い致します。

—編集後記—

WBCでの日本チームの劇的な優勝に湧いた日本。一方、1年以上続くウクライナの戦争報道は影を潜めてきている。そこへきての首相襲撃事件がまたもや起こるような世情。気分は明るく、それでいて、世情を冷静、的確にみる姿勢を忘れないことを心がけたい。

(O.T)